

学識経験者として地方自治体などから建築設計者選定のプロポーザルの委員を依頼されることもある。拙い経験に基づく私見に過ぎないが、委員を経験させていただき感じたことを述べたい。

最近参加したのは、公共複合施設の計画段階の事業者選定プロポーザルである。スポーツ施設、障がい者用施設、職員住宅と多様な用途の施設を一体的に整備すること。発注者側からはそれぞれの施設を所管する管理職の方が、学識経験者としては各施設の専門家の先生が委

員として参加された。建築分野の専門家としては筆者一人だけが委員を務める委員会の構成であった。

行政の委員の方は、自身が所管する部署の立場からの意見を述べられるのは当然だが、いろいろな業務を経験されて広い視野を持っているためバランスの取れた意見を聞けることが多

建設

論評

プロポーザルの是非

い。日頃、市民対応に苦勞されているのか、施設の整備について地元の方々に説明するプロセスを重要視されていることがうかがえる。一方、学識経験者の方はご自身の専門分野に関することなので、指摘の内容は的確で反論の余地はない。ただ専門家の先生から厳しい評価を受けると、全体としては非常に良い計画であっても総合評価が低い点数になりがちだ。

プロポーザル方式は設計事業者を選定するものであり、計画案を決定するものではない。しかし応募資料には配置図、平面図、断面図や透視図が含まれており、どのような建物を提案したいのか、かなり具体的にイメージできる。どの委員もどのような施設が実現されるのかについて関心が高く、提案されてい

る計画案の内容に評価点は左右される印象だ。

筆者が経験したどのプロポーザルでも、委員長を含めて各委員の持ち点数は平等であった。建築の専門家としては、こちら

の提案の方が結果的には良い建物ができると思って高く評価しても、他の委員の評価は異なる。多様な観点から評価しているの

で、評価点にばらつきが生じるのは当然の結果であろう。筆者にとっては行政の委員や他分野の専門家たちがどのように建築を評価し、建築に期待しているのか、その観点を勉強させていただける貴重な機会になっている。

者の多くが2番目として評価した提案が、全委員の合計点数では最上位になる場合があることを留意しておく必要がある。特色のある提案は高く評価する人いれば、評価しない人もいる。一方、どの項目についてそんなに提案されている無難な提案は結果的に高い評価点数となりがちだ。建築の専門家が複数人、評価に参加すれば妥当な結論を導き出すことができるのかと言えば必ずしもそうでもなく、専門家の中で意見が異なることも多い。入札方式ではなくプロポーザル方式で設計事業者を選定すべきとの議論は日本学術会議などでも繰り返して行われてきた。良い事業者、良い建築とは何か、どのような発表方法が良

いのか、難しい課題である。

(誠)

